

さまざまな行列の性質

1 直交行列

定理：直交行列

正方行列 U が直交行列であることは、次のように表すことができ、それらはどれも同値である。この直交行列による線形変換を、直交変換という。

1. 行列 U は一般の回転を表し、図形を合同な図形に写像し、線分の長さもなす角度も変えない。 \implies 行列式 $|U| = \pm 1$ (この変換により対応する領域の面積/体積が変化しない)
2. 任意の列ベクトル x, y に対し $(x, y) = (Ux, Uy)$ (内積の保存)
3. 任意の列ベクトル x, y に対し $\|x\| = \sqrt{(x, x)} = \|Ux\|$ (ノルムの保存)
4. 行列 U の各列の要素を成分とする n 個の列ベクトルはすべて長さ 1 で、たがいに直交する。つまり $(u_i, u_j) = \delta_{ij}$.
5. $U^t U = U U^t = E$

$$U^t U = \begin{bmatrix} u_1^t \\ u_2^t \\ \dots \\ u_n^t \end{bmatrix} \begin{bmatrix} u_1 & u_2 & \dots & u_n \end{bmatrix}$$

例： $U = \begin{pmatrix} u_1 & u_2 \end{pmatrix}$ の場合、内積が $(u_1, u_2) = 0$ となり、ノルム $\|u_1\| = \|u_2\| = 1$.

6. $U^t = U^{-1} \implies$ 転置行列が逆行列になっているので、逆行列を計算する手間が省ける。
直交という名前の由来：行列を列の並びとみなしたとき、それがすべて直交しているから。

2 固有値，固有ベクトルの性質

以下では x が行列 A の固有ベクトル， λ が固有値であるとする： $Ax = \lambda x$.

1. x が固有ベクトルなら， $2.7x$ も固有ベクトル： $A(2.7x) = \lambda(2.7x)$.
2. 行列 $2.7A$ に対する固有値，固有ベクトルは：
 $(2.7A)x = (2.7\lambda)x = \lambda'x \rightarrow \lambda' = 2.7\lambda$
3. 行列 $A + 2.7I$ に対する固有値，固有ベクトルは：
 $(A + 2.7I)x = Ax + 2.7x = (\lambda + 2.7)x = \lambda'x$.
4. 行列 A^2 に対する固有値，固有ベクトルは：
 $A^2x = A(Ax) = \lambda Ax = \lambda^2x = \lambda'x$.
 $A^n x = \lambda^n x = \lambda'x$.

例題： $A^3 + 4A^2 - A + 7I$ の固有ベクトルと固有値は：

$$(A^3 + 4A^2 - A + 7I)x = (\lambda^3 + 4\lambda^2 - \lambda + 7)x$$

5. A^{-1} の固有値, 固有ベクトルは:

$$Ax = \lambda x \implies Ex = \lambda A^{-1}x \implies \frac{1}{\lambda}x = A^{-1}x = \lambda'x$$

6. 行列式は固有値の積. $\det A = \lambda_1 \cdots \lambda_n$

$$\det(P^{-1}AP) = \det(P^{-1}) \det(A) \det(P) = \frac{1}{\det(P)} \det(A) \det(P) = \det(A)$$

行列式には面積 (体積) 拡大率という意味があり, $\det(P^{-1})\det(P) = 1$ である. P が逆行列を持たなければ (正則でない, 特異), $\det P = 0$ である.

7. A^t (t は転置) の固有値, 固有ベクトル. $A^t u = \lambda' u$ とすると, その固有方程式は

$$\phi(\lambda') = \det(\lambda' E - A^t) = \det((\lambda' E - A)^t) = \det(\lambda' E - A) = \phi(\lambda)$$

行列を転置しても行列式の値は同じ. したがって 固有値 $\lambda' = \lambda$

8. A が固有値 $\lambda = 0$ をもつ. $\implies Ax = 0$.

これを満たす $x \neq 0$ が存在するということ. $\implies A$ は特異.

3 対称行列の性質

定理: 対称行列 (証明は教科書を参照)

- 対称行列の固有値はすべて実数.
- 各固有値に対して実数を成分とする固有ベクトルが求まる.
- 各固有ベクトルは互いに直交する.

定理

二次形式 $f(x, x)$ の値は, どの基底に関する成分を用いても同じ (座標変換しても不変).
 x と y の変換の式: $x = Py$,

$$f(x, x) = x^t F x = (Py)^t F P y = y^t (P^t F P) y = y^t F' y$$

1. 任意の正方行列 A に対して: $(Ax, y) = (x, A^t y)$

$$(Ax, y) = (Ax)^t y = x^t A^t y = (x, A^t y)$$

したがって対称行列 $V (= V^t)$ に対して: $(Vx, y) = (x, Vy)$

2. 対称行列 $V (= V^t)$ の逆行列 V^{-1} も対称行列. VV^{-1} の転置を考えればよい.

$$(VV^{-1})^t = (V^{-1})^t V^t = E = (V^{-1})^t V \implies V^{-1} = (V^{-1})^t$$

3. 逆行列 V^{-1} は, V と同じ固有ベクトルをもち, 固有値は逆数になる.

$$V^{-1}x = \lambda' x \implies x = \lambda V x \implies Vx = \frac{1}{\lambda'} x$$